安威川ダム建設事業の建設事業評価に対する意見

提出者に関する事項	住所又は所在地　大阪府茨木市中穂積二丁目３－３３ 氏名又は団体名　畑中孝雄 電話番号又はメールアドレス　takao_hatanaka@nifty.com
意見・提言	投資効果費用分析について 大阪府は安威川ダム事業の投資効果費用分析（Ｂ／Ｃ）について、２０１２年は５．６１、２０１７年は４．４３としています。９９年では問題の１００年確率降雨（２８年９月型）氾濫解析では、氾濫面積は３５１５㌶、年平均被害額は約８９億円としていました。ところが２００７年神崎川ブロック河川整備計画変更及び安威川ダム全体計画変更では計算流量と計画降雨波形棄却基準の変更により基本高水流量の増量が行われ、安威川相川基準点の基本高水流量は１７５０立方メートル／秒から１８５０立方メートル／毎秒に変更されました。即ちこれまで昭和４７年９月１６日型降雨は棄却していたが採用することとなったためです。この変更により氾濫解析図も一変しました。２０１１年３月大阪府作成の安威川ダム計画修正検討業務委託報告書による氾濫解析では（破堤予測箇所２８箇所）現況河道では、昭和４７年９月１６日型１００年確率降雨（時間雨量８０ミリ）が降って破堤予測箇所で破堤した場合（内水を含まず）の浸水予想区域図では、氾濫総面積約２０５００ヘクタール。床下浸水（約１００００ヘクタール）、床上浸水（約１００００ヘクタール）、一階部分浸水（約５００ヘクタール）です。１９９９年（氾濫総面積３，５１５ヘクタール）の氾濫解析図と比較すると面積で５．８倍になっています。 年平均被害額は１４８億円。因みに９９年調査では年平均被害額は約８９億円、０４年では約９２億円、０８年では約９６億円でした。たしかに「今後の治水のあり方－中間とりまとめ」では「コストと事業効果を重視」するとしています。しかしそうであればそうであるほど、洪水調節便益の基本となる氾濫解析変更の過程をすべて明らかにすべきです。大阪府の安威川に係わる氾濫解析は実施の度毎にふくれあがり、この間を見ても１．７倍になっています。このような被害を作為的に水増しする理由と過程について詳細に説明すべきです。